



「わあっ」と歓声があがった。
早く登りたい。
「階段は何段かな」と思いながら
ふもとまでかけよった。
「一、二、三……」
む中になり、みんな大声をあげて
登った。

六年 中根路江

昭和51年8月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(雄大な環境に育まれて—常磐小)

一 教育随想

チヨークと黒板

酒井榮吾

一、バケツと雑巾：昨年の一月半ば、鳳来町の医王寺に泊めていただいた折に耳にしたことが気になり、帰学してから調べてもらった。某誌を見ると、英語英米文学科三年の三宅章君が、本学の紹介をし、次のようなことが書かれている。

(前略) 本校の名物教授をご紹介します。しよ。 (中略) 一般教育の地学の先生がいます。この教授は、講義にバケツをぶらさげてあらわれます。バケツの水でぞうきんをすすぎ、まずていねいに黒板をふいて、さらに前のほうの学生の机までふいてから講義がはじまります。授業の終りには、もう一度ぞうきんで黒板と机をふくという：(以下略)。

私が濡れ雑巾をしぼって黒板を拭いたのは国立北京大学理学院在職中からである。愛知学芸大学に就任した頃は、雑巾にする布片がなかった。自宅から雑巾を持参して黒板を拭くようにしたのは昭和卅一年頃である。八時四十分始めの講義に、凍った雑巾をとくために湯を沸かしたこともある。始業前に水道のない六〇三教室にバケツで水を運び、先づ前列の学生机を拭き、教卓・黒板を拭いてから、晴れ晴れした気持で、定刻に「お早うございます」の挨拶をした。

二、チヨークと黒板で勝負：暮の十二日

の午後、川島四郎教授が来室されて、次のように仰った。

「酒井先生、お礼にきました。私がこの大学に来て十年にもなるが、黒板が何時もキレイだから誰が拭くのか知りたいと思つて、掃除する人達にたずねたこともあつたが知らないと言いました。そこで今日は教務の青木先生にたずねたら、それは大学の酒井教授でしようと話されたのでやつて来ました。このケース(見ると名刺の空箱)には七色のチヨークを入れてあります。黒板がキレイであるとチヨークの色がハッキリします。私はこの大学のほかに三、四の大学に講義に行つていますが、それ等の大学の黒板は汚れています。ところがこの大学の黒板はなめてもよい位キレイです。教師はチヨークと黒板で勝負します。」

三、雑巾の額：去る四十年三月七日、私は退官記念の講演にも二枚の雑巾を袋に入れて持参したが、図や表を用意したためにチヨークは使わなかった。しばらく

して、某先生が遠路わざわざ梅園の住宅をたづねて下さつて、私の記念の雑巾を欲しいと仰つた。是非サインをと熱意を表わされたので墨をすつたが、雑巾にサインは生れて始めてである。その雑巾がその先生のお宅に額として掲げられているのを見て、私以上にビックリコイタの家内である。

四、雑巾のブレゼント：去る二月、姉妹校のアレン短大(岩手県久慈市)に馳せ参じ、窓外の残雪を見ながら講義をしたが、例によつてバケツの水を使つた。終つて帰る直前に三人の女子学生からのブレゼントが雑巾と手ふきで、前夜三人で縫つたそうである。こんな素晴らしいブレゼントがこの世の中にはかにあるだろうか。心が洗われた想いである。

五、チヨークのブレゼント：人工のチヨークを使つての毎日である私にアルピオン(白妙の国)(英国の旧名)からのみやげにとて天然のチヨークをいただいたのは去る三月末であり、本学英語英米文学科の助手小池一夫君に深謝しながら研究室の黒板に英語で書いたが、それは消す気にはなれない。

(桜美林大学教授)



趣味

●手品

佐野寛海

手品を習つて二十五年、その間、子ども会、老人クラブ、社会教育諸団体などの会に実演してきた。

子どもたちには、よく学習ができた時、約束をよく守ることができた時、一、二点見せる。子どもたちは見たいから、また、学習や生活にしんけんになつてくれる。エビでタイを釣るのである。手品は器用な人ができると思われるが、それより科学的基礎がないと開発していけない。

笑ふことを知らない人でも、手品を見ると笑つてくれる。ここに手品の魔法の力がある

(井田小)

●茶

片山美恵子

しいんと静まりかえつた茶室、湯の沸く音が心地よく響く。道具を整え、身ず

ふるさとの自然

無言の侵入者
帰化植物

岡崎の植物 VI



ヘラオオバコ

「帰化植物、センソク発作・皮ふ炎の原因に…」

時折り耳にすることはです。ブタクサ、セイタカアワダチソウなどは、公害植物という汚名を着せられ、マスコミの話題をにぎわわせているので、よくごぞんじだと思えます。

ところで、岡崎市内で観察できる帰化植物は、およそ百九十四種あります。この中で繁殖力の強いと思われるものをあげますと、セイタカアワダチソウ、ヘラオオバコ、ムラサキカタバミ、メリケンカルカヤ、ブタクサ、ヒメジョオン、ダンドポロギク、ニワゼキショウ等であり、環境保全の立場から申しますと、自然植生への進入速度が問題になります。その結果、植生バランスの乱れが生じる

わけです。ところが、原野とか路傍、休耕田のような、直接生活に関係のない所で繁殖が進んでいるため、そのままにされる場合が多く、その後いろいろな面で支障が生まれているのが現状です。

＜自然植生への侵入＞

山林の皆伐地のダンドポロギク、休耕田のセイタカアワダチソウ、庭・畑地のムラサキカタバミ、路傍・堤防のブタクサ・ヒメジョオン・ヘラオオバコなど、これを見ても人間が一次的に植生バランスを乱した場所に強く侵入しており、矢作川堤防でいいますと、竹・ササなどを除去してから、ブタクサ・ヒメジョオンがすごい勢いで繁殖したようです。

＜環境破壊のバロメーター＞

その土地土地の自然植生に対する帰化植物の割合を見れば、環境破壊・汚染はある程度知ることができます。いかに繁殖力の強い帰化植物でも、在来種のバランスを崩してまで侵入する力はないようです。その点、セイヨウタンポポ・オオイヌノフグリは特別のようです。

＜やっかいな耕地雑草に＞

水田・畑などに見られる雑草は、種子で繁殖するものが多いのですが、帰化植物の中で、耕地に侵入したものの多くは根茎・球根などで繁殖するものも多く、厄介な雑草になりかねない素質を持っております。ムラサキカタバミは、園芸種の逸脱・野生化したもののようにですが、いたる所に顔を見せており、陸のプラッタバスといった感じですが。

＜特別扱いしなくても＞

帰化植物の国内侵入経路を見ますと、輸入物質にまぎれて来たもの、園芸植物として輸入され、その後逸脱したもの、メリケンカルカヤのように、戦争中にB29の車輪に付着して来て落下したものなどいろいろです。今日のように、輸入オナリーの生活をしている我々が、植物に對して、「お前はどこの生まれか」などと大きな事言えないような気もします。いずれにしても、日本生まれの植物だけは「ふるさとの植物」として大切にしたいと思う者の一人です。

(河合中 古田 忠久)

まいを正して釜に向かうと、心までびいんと張りつめたような気持ちになる。客を思い、ていねいに湯をくむ。夏はいかにも涼しきように、冬はいかにもあたたかなるように、炭は湯の沸くように。」

四季折々に工夫をこらした客のもてなし方、あるがままの姿でありながら、隅々にまでゆき届いている心くばり。その一時一時を大切にしてお茶、そんなお茶に私はひかれる。

傷つき悩み、心身共に疲れ果てている時、先生との静かな語らい、一盃の茶にほっと救われ、我にかえることができる。(岩津小)

● 書

名倉 達也

四畳半にポロ毛布を敷きつめて、一〇〇Wの裸電球の下で、一人ポツネンと瞑想にふける男あり。

さて、何するものかと、さらに覗き居れば、ロック調の壮烈なビート音がラジオから流れてきたと同時に、そのリズムに乗ってステップを踏むかの如く、八号の太筆が画仙紙の上で舞いだした。

一体、何を表現しようとしたのだろうか。作者は不満足な顔色で、目は虚ろに描かれた墨の汚れを追っていた。

何かを発散させたかのように書かれた文字は、逍遙遊、奥深い意味ありげな語感がある。この文字に託された情趣など理解されなくとも、作者自身にとってこの一瞬は有意義であったらう。(葵中)

東海道を歩く



● 東西交通の要路

宝飯郡から岡崎へ入る。「本宿」の名に昔の駅址を想う。法蔵寺は家康の学問所と伝えられる名刹。背後の二村山は、古来詩歌に詠まれた所。御油断層谷は東西交通の要路で、東名、名鉄、国道一号线、東海道が本宿をネックとして岡崎平野に伸びる。

● 藤川の宿

山中八幡宮を左に見て藤川宿へ。ここは東海道三十七次にあたる宿場。街道沿いにかつての旅籠屋が数軒残っている。宝暦年間の記録に、戸数三百二、旅籠屋二十六軒とあり、最盛期には飯盛女三百人を数えたとか。

● 藤川宿の脇本陣

脇本陣の遺構は珍しくなった。門構え



①東西交通の要路、四線ここに集まる

● 吉良道と作手道

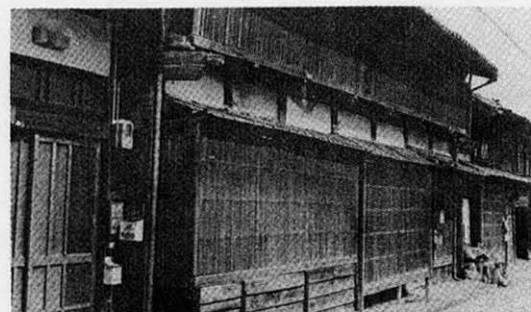
吉良道は藤川の宿から、作手道は大平の里から分れる。道標の仮名文字は、寂のある曲線を描く。かつては、これらの道がなだらかにうねり続いてきた如く、並木の松籟が心地よい。

● 大平川

蜆の里（美合町生田付近）を過ぎれば大平川。大岡越前守が陣屋を構えた地。明治十四年官営愛知紡績所が、大平橋た



②わずかに昔のおもかげを残す藤川の町



③藤川の旅籠“つる屋”。（西郷義雄氏宅）



④今は民家となった脇本陣

もにて操業したことを知る人は少ない。木綿の産地、乙川の水力を背景に生まれ、モデル工場は、短命ではあったが、当地の紡績産業の振興に大きく寄与したものだ。

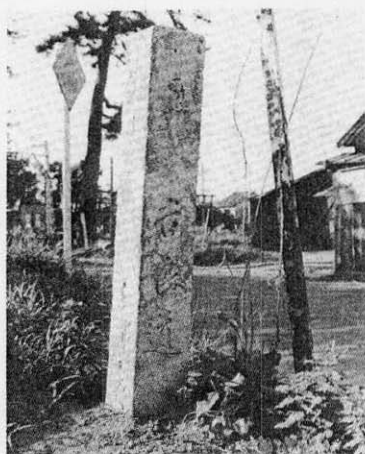
●岡崎領

「従是西岡崎領」元文元年丙辰とある。「欠下に筋違橋あり、ここに従是西岡崎領と印せる傍示杭が立っていた。」と市史に記されている。

東海道上り下りの旅人は、人それぞれの思いでこれを仰ぎ領内を往来したことであろう。現在は能見町のM氏の庭に移されている。

●伝馬の常夜燈

市内の東海道筋には十数基の常夜燈が残っている。中でもこの常夜燈は町の安全を守るにふさわしく大きくどっしり立つ。



⑤吉良道の道標

伝馬の高札場は銀行に、本陣は映画館に、御馳走屋敷は公設市場にと変貌著しい。露地裏に移転したが、ひとり常夜燈は昔の光を守る。

●文教発祥の地

籠田連尺を経て材木町へ、かつての対面所のと、允文館の松も、今は忘れ去られようとしている。玉山学校(大林寺)・本文などもあつて、岡崎文教の発祥地といえようか。

●白山神社の輪くぐり

低湿地であり、板屋根の家が多く、板屋の地名がついたといわれる。

白山神社の輪くぐりは、六月の大はらえに行われる。罪穢を祓うべく、もろもろの祈りをこめて、径五十センチほどの穴をくぐる。こんな素朴な行事も、昭和の現代に生ききているようだ。



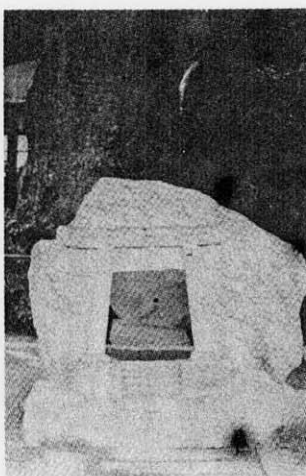
⑥五万石の岡崎領はここから

●水難溺死者菩提塔

日本武尊が東征の時、この地で竹を取り矢を作ったという。その箭竹が今も矢作神社の境内に生えている。また、矢作川の合戦で、新田義貞が足利尊氏との戦いに際し、戦勝を祈願したところ、それに応えて石がうなつたという。このうなり石も、いまだ健在である。母なる矢作の流れも、時には猛り狂う。その度ごとに堤防は切れ、田畑は流され多大の犠牲者を出す。弥五藤神社の溺死者菩提塔に、文政子初秋の水難で流失家屋七五、死者十四名に及んだとある。



⑦幾世紀も生き抜いた常夜燈



⑧輪くぐりの石—白山神社



⑨水難溺死者菩提塔

花との生活

福岡小 黒野 喜美

福岡学区子ども会校外花壇コンクールが六月末日に行われました。十六町内、どの花壇も管理がよくゆきとどいて、ふくよかに育った花苗は、大きなつぼみが開花を待つばかりになっていました。各町ごとに、育苗作文の紹介、「花を愛しましょう。」のプラカード、花壇写生画の掲揚、町名を形どった一人一鉢等、子どもらしいアイデアで発表をし、世話をした人たちの労力と熱意がにじみ出ていました。まさに、環境美化、「花いっぱい。」実践の姿であると大へんうれしく見せてもらいました。



本校は、本年度FBC花壇活動に参加しました。学校を本流に基盤のできた校外環境美化をいっそう高め、美しい学校、町づくりを目的としたいのです。花苗の移植をしている私のそばへ、二年生の子どもたちが「先生間引きしているの。」「こみあいだからでしょ。」「私にもやらせて!」と、理科教材テレビ学習を實際にやってみたいと集ま

つてきます。五、六年生は、ダンブ十ばいの土を運び、手のひらに豆を作って大きなメイン花壇を造成しました。土運びなどできるだろうかの心配をよそに、勤労の体験が喜びとなって、欠如している気力の目ざめとなったようです。「いつでもお手つだいしますよ」と協力的なPTAの方々が花壇まわりの整備をしなから、「先生、子どもに物を育てることをやらせにやーいかなねえ。」と言われるこの実感は、口先ばかりで実践が伴わない自分勝手な思いやりを持たないことの是正を思ってみえるようです。実際、すべてに整いすぎた子どもたちの周辺は、物を作り出すことを不要にし、美しい物に感動せず、正しいことに奮い立たない、中身の形骸化した子どもが多いことに心配をします。

ます。

今、花壇には数千のサルビア、マリゴルドの一本一本の生命が、児童九三四名に見守られて校内校外ともに、やがて真紅の花を咲かせようとしています。環境は与えるものでなく、作り出し育てるものであると信じます。初秋の空に映える真紅を、美しいと感じ、花との生活の中でこの子らが、前進姿勢の活力を見いだしてくれることを望んでいます。

教育日々

大根とデンスケと

美合小 岡田金二

大根を刻んだ「つま」何とも思わず食べているが、どんなにおいしい刺身でも「つま」が添えてなかつたら、どんなに食べにくいことであらう。

「つま」の大根は料理の主役ではなく、ここでは他の材料の

引立て役になっている。食欲を増し、消化を助けるたいせつな働きをするものであるが、その価値が評価されることなく軽視されてはいないだろうか。

一時間の学習で、その内容は子どもの三七％には理解され、残り六三％の子どもは理解できず、いわゆる消化不良のまま終っているという人もある。

学習中、子どもたちの目かららんと輝やき、興味を持って問題解決に立ち向ってくれたらと、教師なら願うに違いない。

子どもの興味を促進し、注意を集中させる手だて(「つま」に当る)を用意することである。

焦点の定まらない瞳でぼんやりしている子どもも、映像に對する敏感に反応を示し、画面にいく入るようになっている。機器の活用は、眠っている子どもに心にゆさぶりをかける。

人間の認識は六五％が視覚から、二五％が聴覚、一〇％が味覚・嗅覚によるといわれる。映像はこれらの、色・形・動き・音を合わせた九〇％を包括している。VTRを利用すれば、時間と空間を超越し、視と聴による方法でより多くの情報を提供することができる。



しかし、知識を与え、また吸収させ易くするだけのものではなく、むしろ知識をつくり出していくことのできる力、豊かな人間性を育て、生涯にわたってたくましく学びとっていく態度を身につけさせるためのきつかけを用意しなければならぬ。

きょうも、刺身(授業)をおいしく食べられるように、新しい内容を、身近かなものを、そしてより確かなものを求めて、ビデオ撮りに走り出すのだ。子どもに消化不良を起こさせないために――

肩にめりこむデンスケも、全く苦にならない。



竜美丘小新設工事成る

九月から統合してスタート

本年四月に開校した竜美丘小
学校は、この一学期間、男川小
に八学級、三島小に六学級、羽
根小に三十八名と、それぞれ分
散して授業を行なってきた。

その間、学校建設工事は順調
に進み、八月三十日に完工式、
開校記念式を行なうことが決ま
った。したがって、九月一日か
らは統合して十二学級（四六二
名）でスタートする。

新装成った白亜の校舎には、
普通教室十二、理科室、同準備
室、資料室、音楽室、図書室、
会議室各一、それに放送室、職
員室、校長室、保健室が整って
いる。児童たちは今、住みなれ
た学校での生活を懐かしみなが
らも、新校舎に集い、名実とも
に竜美丘小の子どもとなる日を
待っている。（カットは、新し

「寄贈刊物・資料等」

◆中国に学ぶ 板倉四郎
岡崎市訪中使節団員のひとり。
中国の実験はそのま、日本に適
用できないとしながら、しかし
偉大であり、日本の政治・教育
・生活等を考える時大きな教訓
となることを卒直に語った異色



51・52年度研究校決まる

希望のあったいくつかの学校
の中から小学校六校、中学校二
校が決まった。校名、研究主題
は次の通り。

- ▼緑丘小 緑丘の授業確立をめ
- ▼羽根小 製作と行動学
- ▼井田小 たく
- 習の基礎を養う
- ▼竜谷小 読む力、書く力、計算の力
- を育てる指導
- ▼奥殿小 活動力

の報告書。B6判一〇四P。

◆学校図書館管理・運営のため
に 現職教育学校図書館部編
図書館学の原理に沿うとも
に市内の学校の実状に合せた管
理・運営の方法がまとめてあり、
既刊の「読書指導のために」と
併せて必携の手引書。新書判。

あふれる学級づくりをめざして
▼大門小 新しい校風樹立を
めざす学校づくり
▼葉中 自主協
力的な学習態度・習慣の育成
▼福岡中 生徒ひとりひとりの学
力を伸ばす学習指導の充実。

九月の研究発表校

- 【六ツ美地区小・中学校】
- 二十一日 主題 実践力を高め
- る道徳教育（心豊かな六ツ美の
- 子をめざして）
- ▼内容 朝の実
- 践、公開授業、分科会（以上学
- 校別）
- 研究発表、協議会（以上
- 全体会）
- 講演「実践力の指導と
- 道徳の授業」筑波大教授井上治
- 郎先生。※文部省指定、県委嘱
- 【生平小学校】
- 二十八日 主題 ひとひとり
- の子供の考えを育てる（国語、
- 算数科を通して）
- ▼内容 オリ
- エンテーション、児童集会、公
- 開授業、研究発表、分科会協議
- （指導・渥美利夫先生、清水毅
- 四郎先生、石川勤先生ほか）

●第29回中学校市長杯総合体育大会成績

昭和51年7月21～23日、8月4日

種目	性別	成績		
		優位	2位	3位
バレーボール	男	勝山	岩津	城北
〃	女	矢作	葵	城北
バスケットボール	男	美川	南	矢作
〃	女	矢作	美川	葵
軟式テニス	男	南	矢作	竜海
〃	女	矢作	河合	美川
卓球	男	矢作	竜海	東海
〃	女	竜海	六ツ美	東海
体操	男	竜海	甲山	東海
〃	女	南	葵	矢作
ハンドボール	男	美川	六ツ美	葵・城北
〃	女	六ツ美	岩津	葵・美川
剣道	男	常盤	城北	東海・葵
〃	女	東海	葵	岩津・美川
柔道	男	美川	竜海	
ソフトボール	男	甲山	城北	葵・岩津
軟式野球	男	葵	城北	岩津
水泳競技	男	甲山	葵	城北
〃	女	甲山	葵	城北
陸上競技	男	葵	矢作	甲山
〃	女	甲山	城北	矢作

〈総合成績〉

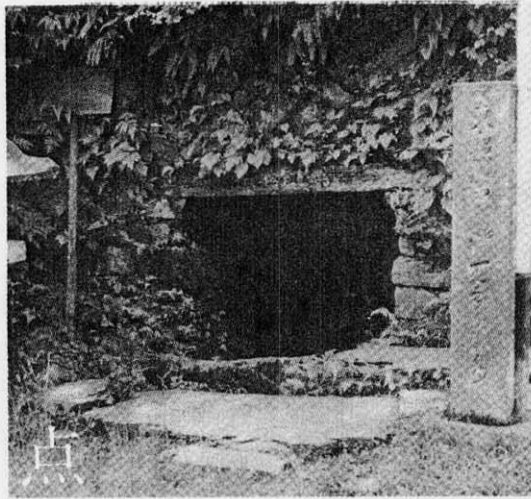
種別	順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	合	葵	矢作	甲山	竜海	城北	南
女子総合	合	矢作	葵	甲山	南	美川	東海
男女総合	合	矢作	葵	甲山	南	城北	美川

- 第3回岡崎市小学校球技大会
- 第15回岡崎市小学校ソフトボール大会
- 第14回岡崎市小学校水泳競技大会……成績

昭和51年7月21日～8月6日

種目	性別	優勝	2位	3位
ソフトボール	男	岡崎	六名	矢作東・矢作南
〃	女	広幡	附属	男川・常盤
バスケットボール	男	広幡	愛宕	根石・岩津
〃	女	三島	美川	愛宕・大樹寺
バレーボール	男	大樹寺	岡崎	合川
〃	女	大樹寺	岡崎	六名・六ツ美中部
サッカー	男	福岡	広幡	三島
水泳競技	男	根石	附属	井田
〃	女	根石	井田	矢作東

御 硯 水



所在地—岡崎市本宿町寺山

徳川家康は七歳にして父母をうしない、叔父にあたる七代教翁上人につき、九歳まで、本宿法蔵寺において手習、素読を学んだ。教翁上人は家康に恵美寿尊の像を与え、恵美寿の釣魚をもつて「幸運は自然に到るもの、気を長く持て、そしてひとたび手にした幸運はしっかりこれを守り持ち続けよ」と教訓せられたという。

現在も冷水をたたえている。本宿村誌にも「此の井、幅四尺長さ五尺ばかりの方形にして深さ凡そ六尺水清し、近辺の民家夏期に至る時は此の水を貰ひ飲用に充つ」とある。

なお、この「御硯水」は、その昔、日本武尊が東征の時、この水によって兵は疲れを忘れ、また病人は直るといふ奇ずいが見われ、尊は「賀勝」を三度唱えたので、以来「賀勝水」とも名付けられているという。

カット
緑丘小
中根豊美

この本を

- 歴史を考える 司馬遼太郎 ￥ 560
- 文芸春秋新社
- 私たちの風景 井上靖・梅原猛他 ￥ 1,500
- 毎日新聞社
- 毎日が日曜日 城山 三郎 ￥ 850
- 新潮社
- 不思議の国ニッポン ボール・ボネ ￥ 900
- ダイヤモンド社
- マンボウ周遊券 北 杜夫 ￥ 600
- 新潮社
- 暮らしの中の日本語 池田弥三郎 ￥ 900
- 毎日新聞社
- 現代日本の教育 村井 実 ￥ 800
- NHK市民大学業書
- 低学年の数と計算 大須賀康宏 ￥ 1,800
- 啓林館
- お母さん、あきらめないで 吉岡たすく ￥ 580
- 実業之日本社
- 峡 空 星野 孝 ￥ 1,500
- 灯短歌会

けつ(結果)果がどうなるかを考えない、場当り的な行動が最近の子どもにも多いという。悪事の動機は多分に「そうだ」と言われる。結果を恐れず、積極的な行動も大切だが、事を起せばどうなるか道徳的判断と実践のできる子どもに、今一度社会が力を注ぐ必要はなからうか。

ご け し ぐ せ ん

子どもの創意くふうを育てる……。口で言うは易いがなかなかできることではない。結果だけを見て、その過程を軽視しがちになるからである。休みが明けて持ってくる自由研究……。作品のまとまりはともかく、未完成でもその中にこどもらしいアイデアを見つけ、汗の臭いをかき分けて、高く評価してやりたい。

しつけについて一般に欧米では、小さな子を躰けるのは、犬を躰けるのと同じで、即座に体罰を喰わせる。日本の母親のようには道理を説いたり、やさしく言い聞かせるのではなく、してよいことと悪いことを、体で覚えさせるしかないという。それは、ことばではまだ理解できないからとの見地であるとか。

むかしのことを教えてくれるものに目を向けた。欠町筋違橋付近にたっていたと伝えられる「従是西岡崎領」を紹介できたのはうれしい。先人の苦楽哀歓を秘めてたなずむ路傍の木石に、ふるさとの歴史をさぐるのも一つの銷夏法ではないだろうか。